

房総里山芸術祭

いちはらアート×ミックス2020 へようこそ



今年も桜の花が芽吹き、いちはらに春が訪れようとしています。

2014年に「中房総国際芸術祭」として産声をあげた「いちはらアート×ミックス」も、3回目の開催となります。開催に向けご支援、ご協力をいただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

市原市は、千葉県中央に位置する人口約28万人の都市です。市の北部には日本有数の石油コンビナート群が立地する一方、南部には養老川の恵みをもたらす田園風景や、先人たちがいにしえより守り育んできた美しい里山が広がり、春には満開の菜の花の中をトロッコ列車がのどかに走ります。都心や成田・羽田の両国際空港に近い立地ながら、人々の安らぎと共感を呼ぶ日本の懐かしい姿を持っている、いわば“首都圏のオアシス”といったまちです。

「いちはらアート×ミックス」は、このような地域の魅力を起点とし、これまで閉校した小学校や古民家の活用、地域に根差したアーティストの創作活動、地域住民が主体となった心のこもったおもてなし活動などにより、市原市に世代や市域を超えた様々な交流をもたらしてきました。

今回開催する「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020」は、市原市の歴史、文化、自然、人の暮らしなど、地域が

持つ様々な資源を現代アートと融合させ、より魅力的な「いちはら」を再発見する新しい形の芸術祭として開催します。また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム「beyond 2020」に位置付け、これまでで最多となる17の国と地域から76組の作家に参加いただくなど多様性に富んだ芸術祭とし、2020年の先を見据えたレガシーの創出につなげてまいります。

満開の花々が咲き誇る里山とアートが織りなす空間で非日常を体感いただき、自然の中にぽつんと佇む小湊鉄道の駅舎や、夕日に照らされた田んぼなどの何気ない日常風景、そこに暮らす地域の方々の姿など、当たり前前に存在しているものの美しさを、いちはらアート×ミックスを通し再発見していただくきっかけとなれば嬉しく思います。



いちはらアート×ミックス
実行委員会会長（市原市長）

小出 譲治